

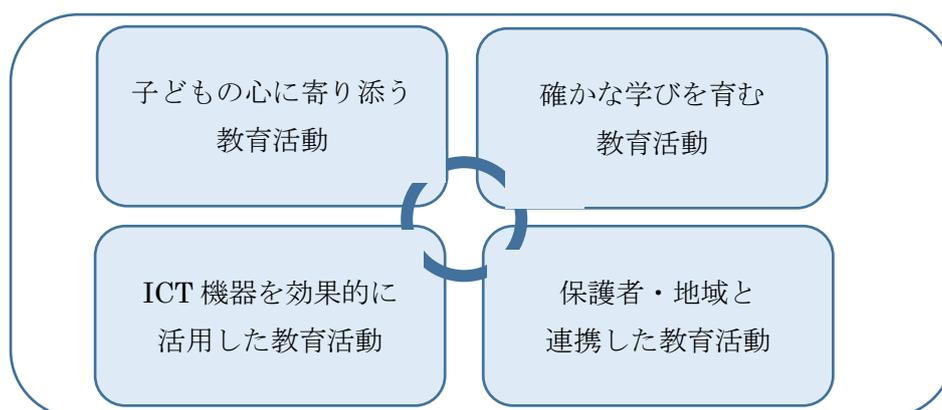
1 本校の教育目標

大田区教育委員会の教育目標を受け、おおた教育ビジョンに基づき、人間尊重を基調とし、学力の向上と健全育成を図り、生きる力の基礎を培う。また、学校と家庭・地域との連携を深めるとともに小中一貫の教育を進め、地域全体の教育力の向上を図る。この考えを基として、次の学校教育目標を定める。

本校の教育目標

- ◎心豊かで思いやりのある子（重点目標）
- ◎よく考えくふうする子
- 健康でたくましい子

2 教育活動の基本理念



<今年度の重点>

- ・学習面、生活面ともに子どもの心に寄り添う教育活動
- ・基礎・基本の定着や確かな学力を身に付けさせる教育活動
- ・一人一台タブレット端末等のICT機器を活用した教育活動
- ・保護者・地域の皆様の協力をいただき連携して取り組む教育活動

の4点を今年度の重点とする。日々の教育に携わる教職員が、個々の担当する学年・専科経営や校務分掌をもとに、上記4点の重点活動を組織的に計画、運営する。

また、これら4重点は、それぞれが独立するのではなく、綿密な連携のもとに教育活動を推進する。それぞれの関係性・関連性を明確にし、個々の教育活動のみならず、互いの連携による相乗効果を醸成させ、学校全体の教育活動のより一層の充実を図る。そのためにも、日々の報告・連絡・相談を徹底する。

3 教育目標の具現化に向けた3つの学校像

以上の教育目標および令和4年度の重点の具現化に向けた教育活動を展開するにあたり、学校経営の基本姿勢を3つの学校像として、以下に示す。

(1) 子どもたちが誇れる学校

①授業がよく分かり、自己の向上が実感できる学校

学習の基礎・基本となる学習内容の定着を図る。繰り返し学習を行う中で、子どもたちの「なぜ?」「やってみよう」「分かった」という学びのサイクルを大切にする。基礎・基本の定着を図りつつ、自分自身を振り返ることで、できるようになったことや学ぶ喜びを実感できるような授業を日々研究し、提供していきたい。

②一人ひとりのよさが十分に発揮され、自己肯定感が高まる学校

学習や学校行事の中で、自分の役割に責任をもち、最後まで粘り強くやり遂げることをめあてとしてもたせる。自分なりに考えて行動することは、一人ひとりのよさがそれぞれの場面で発揮される経験を産み出す。「やってよかった」「挑戦してよかった」という思いを自信につなげていきたい。このような経験を通して、自己肯定感を高める場を充実する。

③安心できる居場所が確保され、互いに認め合える学校

学年、学級もしくは異学年交流等、それぞれの場で安心して学校生活を送れるような学習環境を創出する。友達との様々な学習体験や学び合いの切磋琢磨からお互いのよさを感じ取り、互いを尊重し、認め合える学校でありたい。

(2) 保護者が応援してくれる学校

①子どもが登校することを楽しみにする学校

子どもが学習や友達との学校生活を楽しく感じ、明るく元気に学校生活を送れるような学校を目指す。人と人とのコミュニケーションの第一歩は「あいさつ」「へんじ」である。「あいさつ」「へんじ」は、明るく居心地のよい環境をつくる。基本的な生活習慣として、しっかりと身に付けさせる学校でありたい。

②指導が丁寧で子どもの成長が認められる学校

学習面、生活面ともに子供に寄り添い、繰り返し丁寧な指導を継続することが確かな学習の定着につながる。P D C Aサイクルの学習を形成し、様々な学習体験を積み重ねることで、子どもの成長が確実に認められる学習基盤を構築していきたい。

③保護者の要望や悩みに誠実に応じてくれる学校

子どもの成長は一人ひとり様々であり、誰一人として同一の成長をなすものではない。子どもが健やかに成長していく過程での悩みや相談に真摯にかつ誠実に応じる学校でありたい。学校と家庭が車両の両輪となり、一人ひとりの成長を支える体制を充実させる。

(3) 区民に信頼される学校

①教育活動に魅力があり、その目的がよく分かる学校

保護者や地域、関係諸機関との連携は、私たちが学校教育を営んでいく上で、より効果的な魅力ある教育活動の推進につながると考える。社会の変化に柔軟に対応する力を育成するために、学習指導要領を基にした学習を構築し、ねらいや意図を明確にした教育活動を丁寧に進める。

②子どもが素直に育ち、学校に活力が感じられる学校

家庭や地域で育っている過程の子どもたちが、保護者・地域に愛され、学校でも素直に健やかに成長できるような学習環境を構築するとともに、子どもたちの生き生きとした教育活動を積極

的に発信していきたい。学校の中で児童の活躍の場は多い。これらを紹介していくことは、保護者・地域にとって大きな喜びになると考える。

③教育環境の整備が行き届いている学校

子どもがよりよく成長するための教育環境の整備に尽力する。安心・安全な教育設備はもとより、保護者・地域とともに児童を育成し、複数の目で児童の成長を見守る教育環境を大切にしていきたい。

4 教育目標の実現に向けた基本方針

(1) 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

- ①電子黒板・デジタル教科書・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用することで、情報活用能力やコミュニケーション能力の育成を図る。
- ②理科指導専門員や理科支援員の活用を通して、児童の科学・技術に関する興味・関心を高めるとともに、論理的・科学的な思考力を育成する。
- ③プログラミング学習を導入し、プログラミングの仕組みなど体験活動等を通して理解させるとともに児童の論理的思考力を高める。また、学習面だけでなく、生活面でも、自分自身の気持ちをしっかり伝えられる、理由や思いを伝えられる児童の育成を目指す。
- ④外国語講師と外国語教育指導員（ALT）による外国語及び外国語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の育成を図るとともに国際理解教育の推進の一助とする。
- ⑤ものづくりに主体的に取り組む態度を身に付け、学びの中で楽しさを実感させる活動を通して創意工夫を生かした「ものづくり教育」を推進する。

(2) 学力の向上【知】

- ①大田区学習効果測定等の学力調査の結果を踏まえて、授業改善推進プランを作成・実践し、授業改善につなげる。また、学習カルテ等を効果的に活用し、評価・指導方法を見直し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育てる。
- ②互いに自己の考えを伝え合う学習活動を効果的に実施することで、一人一人の児童の学力と言語能力の向上を図る。また、特別活動・生活指導においても言語能力の向上を図り、自分の思いや考えを生き生きと表現できる児童を育成する。
- ③作文指導教材の「書くってたのしいね」を活用して、文章を書くことに親しみ、楽しみながら「書く力」とコミュニケーション能力を育成する。
- ④地域の自治会・町会・敬老会等との交流活動を計画的に設定し、児童が主体的に活動できるように工夫した活動を実施する。
- ⑤読書活動計画を策定し、読書学習司書を活用したり、読書サークルによる朝の「読み聞かせ」を定期的に行ったり、週1回以上の「朝読書」の時間を確保したりするなどの取り組みにより、読書への動機付けや読書をする楽しさを味わわせるとともに、読解力の育成を図る。
- ⑥確かな学力の定着を図るため、特に算数科では、全学年で習熟度別少人数指導を実施し、「東京ベーシックドリル」や「算数ステップ学習」の活用、補習教室の充実を図る。また、学習コンテンツを活用した家庭学習や各家庭との連携を密にすることで、家庭学習の充実を図る。

(3) 豊かな心の育成【徳】

- ①全教育活動を通して、道徳教育を実践する。また、考え・話し合う道徳の授業を展開し、自他の命および人権の尊重、規範意識、思いやりや感謝の心を育む。

- ②返事・あいさつをしっかりと身に付けさせる。授業の始まりと終わりの挨拶でけじめを付けさせる。
- ③生活指導に関し、全教職員で情報を共有し、いじめやその他問題行動の未然防止問題解決のための組織的対応を行っていく。
- ④メンタルヘルスチェックの活用や個人面談、特別支援教室やスクールカウンセラーとの連携を通して、児童理解を深め、児童の心の安定を図るとともに、一人一人を支援する教育を推進する。
- ⑤障害者理解教育を通して、他者を正しく理解し、互いに尊重し合うことのできる心を育む。
- ⑥高学年児童・委員会活動を中心に、学校生活をよりよくしていくための自治的な活動に取り組みさせていく。
- ⑦若竹学級や異学年等との交流学习及び共同活動を通して、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。
- ⑧池上警察署との連携を継続し、セーフティ教室等を計画的に行い、児童の健全育成を図る。
- ⑨人権週間、生命尊重週間の取り組みを充実させ、自他の生命を尊重する態度と実践力を育てる。

(4) 体力の向上と健康の増進【体】

- ①日常的な体育的活動を充実させるため、東京都統一体力テスト等の結果を有効に活用するとともに、体力向上プログラムに基づく授業を実施する。
- ②「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動に取り組み、体力の向上と運動の日常化を図る。また、低学年を主として、体育指導補助員を活用して、体育の充実を図っていく。
- ③オリンピック・パラリンピック教育の一環として「学校2020レガシー」を推進し、共生社会実現に必要な資質を養うとともに、スポーツを楽しむ態度を育てる。
- ④養護教諭と連携した保健教育を通して、児童の生活習慣への意識を高めさせ、自己の健康に留意し、たくましく生きる心身の基礎を身につけられるように図る。
- ⑤「早寝・早起き・朝ごはん」月間を推進し、児童の基本的な生活習慣の確立と健康の増進を図る。合わせて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるように食育を推進する。
- ⑥様々な体験的な活動を取り入れ、自分の健康や体力の向上への意識を高めていくように図る。また、食に関する体験的な学びを充実させ、日常生活が健康づくりであるという意識をもたせる。

(5) 特別支援教育の充実

- ①若竹学級との交流を中心に据え、様々な交流活動を実施する。
- ②特別支援コーディネータを中心に、サポートルーム教員・在籍学級担任が連携を取り、保護者との連絡を密にしながら、子どもが感じている学校生活上の困難さに対する支援体制を充実させる。
- ③特別支援学級における指導の意義や内容について教職員が理解を深め、児童への対応と指導に適切に生かしていく。
- ④特別支援教育に関する研修会を実施して児童理解を深め、日々の指導に生かしていく教育体制をつくる。

(6) 家庭・地域との連携【学校・家庭・地域】

- ①地域人材を生かした教育活動を積極的に実施する。学校地域コーディネータと連携を図り、子どもたちにとって有意義な活動を設定する。
- ②学校公開日や学校行事の公開、学校から発信するたより、ホームページ等を通して、教育活動に係る情報を発信し、家庭や地域社会とともに児童を育成する開かれた学校運営を進める。
- ③学校支援地域本部およびPTAと連携し、多様な体験的活動の場を設定したり、地域とのつながりを生かした教育活動を展開したりする。
- ④馬込東中学校との学習指導面・生活指導面での連携を継続・推進する。
- ⑤学区内の保育園・幼稚園との連携を強め、スタートカリキュラムを活用して、保育園や幼稚園との円滑な接続を図る。

(7) 教職員として・組織的な対応【教職員】

- ①校長のリーダーシップのもと、副校長、主幹教諭、主任教諭との連携はもとより、すべての教員が組織としての学校経営に対する参画意識がもてるようにし、円滑な学校運営を目指す。
- ②学校経営方針に基づいて自己申告書を作成し、学年・学級経営、専科経営の充実を図る。特に、学校組織の最小単位は学年であることを共通理解し、組織的な対応を常に心がけるようにする。
- ③年間計画に基づいた週案簿を作成し、PDCAサイクルによる授業改善を図る。教材研究を十分に行い、安全に配慮した計画を立案し、日々の授業の改善や充実に努める。
- ④校務分掌に責任をもち、適切に遂行するとともに、常に組織的な業務の進行を心がける。組織としての協働を大切にし、円滑な学校運営を目指す。
- ⑤子どもに相對するとき、子どもの心に寄り添い、「指導者」としての対応を心がけたい。指導者としてクールヘッド・ウォームハートが必要である。子どもが「自分は大切にされている」ということを実感できる指導を実践する。
- ⑥昨年度の研究を基盤に、主として国語科の授業実践を通して、校内研究の推進を図る。また、大田区教育委員会主催の研修及びOJT研修等の校内研修に主体的に参加し、自己研鑽を図る。
- ⑦服務規律を遵守し、社会人として、教育公務員としての自覚を伴った言動を心がける。人権に配慮した対応や個人情報適切な管理など、常に信頼される教職員を意識する。

5 新型コロナウイルス感染症についての対応

- 「大田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づき、学校の安全な教育活動が推進できるように、全教職員で情報を共有し協働する。
- 教育委員会、近隣校、関係諸機関と密接に連携し、児童並びに教職員の健康と安全を第一に考えた教育活動を推進する。
- 学校の教育活動が安全に行われるように、感染症に対する生活指導を徹底、充実させ、日々の児童の対策（検温、マスク着用、黙食、密を避ける、換気等）を日々の生活習慣として定着させる。
- 感染症における人権には十分に配慮し、情報の適切な取り扱いを徹底する。また、タブレット端末等を活用したオンライン学習など、児童の学びの保障を行う。